

ウラジオストク滞在に関する報告について（7月分）

1. 7月の行事・実施事項等について

- 2日 ウラジオストク市創設記念日
- 11日 NHK WORLD JAPAN「リスナーとともに in ウラジオストク」公開収録
- 26日 ロシア連邦海軍の日

2. ロシア語学校について

ロシア語の授業は6月と同様で「文法」「会話」「聞き取り」「読解」の4科目で構成されています。

授業の内容自体は変わっていませんが、多くの先生が夏季休暇に入るため、臨時で1カ月だけ担当教員が替わるなどしており、授業の進め方や進む速さが変わり、いろいろな形式での授業を体験できます。

7月末時点で、私の在籍するクラスは計7人となりました。春には6人いた中国人は全員帰国し、現在はアメリカ人1人、韓国人2人、北朝鮮人1人、日本人3人になっています。夏休みが終わり9月もしくは10月以降に新しい生徒がたくさん入学してくるようで、それまでは少ない人数での授業となりそうです。

3. ウラジオストク市内の状況について

- ・治安状況 当地で日本人が犯罪に巻き込まれたという情報はありません。
- ・気候 7月のウラジオストク市は、上旬は6月に続き午前中は霧が発生し、昼以降は晴れるという天気が多かったのですが、中旬以降は暑い日が続くようになりました。海沿いのためか湿度が高く、かなり蒸し暑いという印象です。海岸やビーチでは肌を焼く人たちがたくさん見られ、多くの人が海水浴へ行く姿が見られました。

また、台風の影響もたまに受けるようで、7月上旬に台風が日本から来た時は警報が出され、学校も休講となりました。しかし、後日、しっかり振替授業が行われたので、あまり台風には感謝できませんでした。

そして、7月に入り日がより長くなり、午後9時を過ぎても外はまだ明るい日が多くなりました。私の部屋は西側で、とにかく長く西日が差すので夜中まで暑い日があり、水シャワーが欠かせません。そのため、最近はお湯が止まっても困らないのではないかと思い始めました。

・行事

<ウラジオストク市創設記念日>

7月2日はウラジオストク市が創設された日です。ウラジオストクは19世紀までは中国(清朝)の領土でしたが、1860年に沿海州一帯がロシア領となりました。街の名前「Владивосток：ウラジオストク」は、「Владеть(ヴラジェーチ)：支配・領有する」と「Восток(ヴァストーク)：東」から来ており、「東方を支配する街」という意味になります。1860年7月2日に街の建設が始まったと言われていることから、この日が市の創設記念日とされました。

しかし、7月2日は国としての記念日ではないので、祝日にならないため、毎年、7月2日以降の週末に様々な行事が行われます(今年は7月3、4日)。市中心部ではパレードから始まりコンサートや歌唱大会、社交ダンスなど、いたる所で催し物が行われ、夜には花火が打ち上げられました。



(写真1：中央広場前パレードの様子)



(写真2：中央広場でのコンサートの様子)

<ロシア連邦海軍の日>

毎年7月最後の日曜日はロシア連邦海軍の日として、軍艦を用いた催し物が行われます。数日前から何隻もの軍艦が海岸に集まり始め、当日は数十隻の軍艦が海岸に並んでいました。軍艦によるパレードがあったり、空砲を放ったりするなど迫力ある催し物のため、たくさんのロシア人が海岸沿いに観に来ていました。



(写真3：海岸沿いに並ぶ軍艦の様子)



(写真4：海の神ポセイドン)

4. NHK WORLD JAPAN「リスナーとともに in ウラジオストク」公開収録

7月11日（土）にウラジオストク市にある「日本センター」で、NHKラジオの番組の公開収録が行われました。NHKワールドは、全世界に情報を発信するサービスで、海外においてテレビ、ラジオ、インターネットなどでニュースや番組を配信しています。2015年は、NHK国際放送開始80年にあたり、また日本とロシアの本格的な外交の出発点となる日露和親条約から160年になる節目の年ということもあり、ロシア極東で日本および日本のラジオの認知度を高めるべくイベントが行われました。

ロシアでは多くの日本のアニメが放送されており、日本のアニメファンは多いと言われています。実際にウラジオストクで日本語を勉強している若者のほとんどがアニメや漫画の影響から日本語学習に進むという印象を受けます。今回は、日本でも人気となった「バクマン」（第1シリーズ第1話）を見ながら、クイズやアフレコ体験などを行いながら番組が作られていきました。

司会はNHK ロシア語講座でもお馴染み、ロシア人の声優ジェーニャさん。やはりプロは違います。日本人よりも上手に日本語を話し、アフレコを行う姿には驚かされました。また、参加者のロシア人が一生懸命日本語のセリフをアニメ映像に合わせて吹き込んでいる姿を見て、日本のアニメのパワーを改めて感じる事ができました。



(写真5 : ラジオ収録の様子)



(写真6 : セリフを吹き込む様子)